

2. 日本哲学会は、大学院生および非一常勤職研究者に対して、どのような支援策を講じるべきだと思いますか。

ID	自由記述内容	学会	年齢	性別
8	シンポジウムの企画段階で会員(とりわけ若手の会員)の希望等が反映されやすいような工夫が必要	日本哲学会	30	男
18	常勤ポストの確保につながるような政策的はたらきかけ。高校・社会科・公民科との連携の強化。自主財源の確保・拡大。発表機会の増強について、むしろ、哲学研究にふさわしい業績発表・評価システムの再構築を！	日本哲学会	32	男
30	「発表機会の増強」とも関連しますが、機関誌『哲學』の年複数回刊行。	日本哲学会	36	男
35	奨励賞の年齢制限の再考	日本哲学会	37	男
37	ベテラン常勤教員は、若い大学院生や非常勤職研究者に対し、もっとリスペクトをもって接するべきです。	日本哲学会	38	女
42	印刷物での雑誌の刊行を廃止し、年会費を下げる。PDFで十分。	日本哲学会	38	男
44	社会、大学へのアピール。	日本哲学会	38	男
76	日本哲学会としてできることは、哲学の可能性を世に知らしめることのみ。	日本哲学会	51	男
77	1. 学閥に束縛されない研究交流のあり方を意識的に開拓すること。2. 現在の学会誌以外にも、若手研究者の論文発表の場として、例えば日哲HPでのウェブ出版などの可能性も検討すること。3. 「日本」哲学会として機能しうよう、本邦の哲学研究を取り巻く構造的歪みを、根本的に見直すこと。	日本哲学会	52	女
88	日本の政治家への啓発。文化的価値観の押しつけ・強制への監視・学問への干渉、介入に対する反対	日本哲学会	57	男
107	ノーベル賞で重視される「独創的研究」の公正な評価	日本哲学会	記入な	男